



長尾和宏(ながお・かずひろ)
医学博士。公益財団法人日本
尊厳死協会副理事長としてリビ
ング・ウィルの啓発を行う。映画
『痛くない死に方』『けったいな
町医者』をはじめ出版や配信な
どさまざまなメディアで長年の
町医者経験を活かした医療情報
を発信する傍ら、ときどき音楽
ライブも。

379

俳優 西田敏行

本気で人に寄り添い伴走

好きだとか嫌いだとか、意識した
ことのない役者さんでした。意識す
る暇もないほど多くの作品に出てい
たし、どれも素晴らしい演技でし
た。しかし突然の訃報を聞いて、今
とても寂しいです。そうか、僕はこ
のひとが大好きだった。亡くなって
から、ファンだったと気が付くこと
があるのですね。

俳優の西田敏行さん。10月17日に
東京都内のご自宅で急逝されました。
享年76。その翌日、死因は「虚
血性心疾患」であると所属事務所が
発表されています。

ひとりのときに逝かせてしまった
と家族が大変嘆いているとの報道も
拝見しましたが、おそらく眠ったま
まで苦しまず穏やかに旅立ったこと
とお見受けします。

その偉大な功績は、すでに多くの



メディアで紹介されていますから、
僕は少し別の角度から西田さんのこ
とをここに書きます。

西田敏行さんはいつも、弱い立場
の側に立って、一緒に怒ってくれる
人でした。郡山市出身の西田さん

は、2011年の東日本大震災の後は、

故郷の福島県に定期的に通い被災者
と一緒に怒り、支援を続けておられ
ました。

「泣きたいときは、思い切り泣い
ていいんだよ。泣いた後に笑えるか
ら」と発信。また、福島県産の野菜
が汚染しているなどの原発事故後の
風評被害に対しては、自ら地元のス
ーパーに足を運び野菜を購入し食べ
ていました。

「福島を汚したのは誰だ。本当に
腹が立つ」と政府やメディアに、本
気で怒っていました。

また20年3月、コロナで舞台や映
画などが自粛要請などで止められて
しまったときは、西田さんは日本俳
優連合の理事長として、当時の安倍
晋三首相や厚労相らに、「働き手支
援についての緊急要請」とする要望
書を提出し、エンターテインメント
を止めないことに必死でした。

さらに22年11月には、俳優たちの
権利を守ろうと、インボイス制度の

延期を要望する声明を発表されてい
ます。

芸能界は、スポンサーありきのお
仕事です。だから政府やメディアに
異を唱えるような発言は、周囲から
止められてしまいます。お上にお利
口さんにしていないと、仕事を干さ
れるわけです(製薬メーカーが背景
にいる偉いお医者さんたちも似たよ
うなものです)。

だけど西田敏行さんは違いまし
た。自分の立場など考えず、『池中
玄太80キロ』の玄太そのままに、困
っている人がいたら本気になって寄
り添える人でした。

ひとときの共感で、怒ったり、泣
いたりするのは誰でもできます。大
切なのは、ずっと伴走し続けられる
かどうか。こんな俳優さんは、二度
と現れないのではないのでしょうか。

僕も残りの人生、西田敏行さんを
少しでも見習い、医療被害に遭った
人たちと伴走する覚悟です。